

# 平成26年度 岡山県文化振興審議会 次第

日時：平成27年2月6日（金）

10時～

場所：ルネスホール（ワークルーム）

## 1 開 会

## 2 議 題

- ・ おかやま文化振興ビジョンの成果指標
- ・ アート・ブリッジおかやま形成事業
- ・ 地域と人を文化でつなぐキーパーソン育成事業
- ・ 次世代ミュージアムファン確保事業

## 3 その他

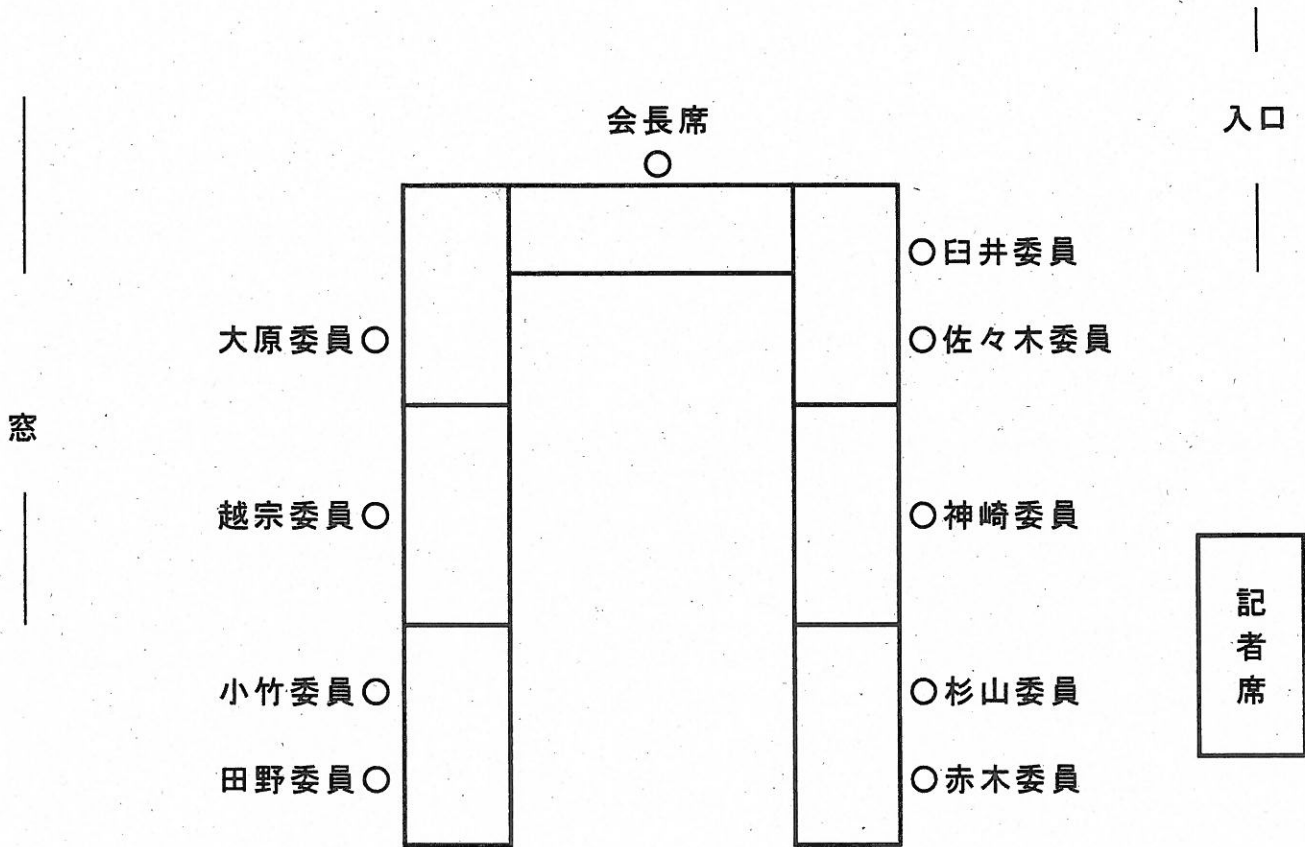
- ・ 県立美術館の特別展について
- ・ 広兼邸の譲与について

## 4 閉 会

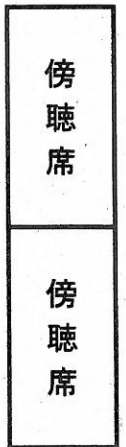
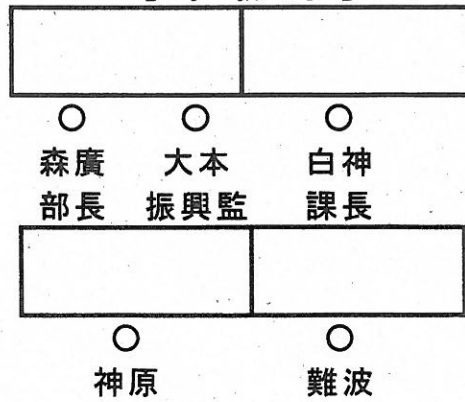
平成26年度 岡山県文化振興審議会 配席図

日時：平成27年2月6日（金）10時～

場所：ルネスホール（ワークルーム）



【事務局】



入口

# 岡山県文化振興審議会委員

任期：H26.2.1～H28.1.31

氏名	役職名
あさの あつこ	作家
赤木 里香子	岡山大学大学院教育学研究科准教授
臼井 洋輔	元吉備国際大学文化財学部教授
大原 謙一郎	公益財団法人大原美術館理事長
神崎 宣武	民俗学者
越宗 孝昌	山陽新聞社代表取締役会長
小竹 石雲	岡山県書道連盟会長
佐々木 英代	岡山県演奏家協会会長
杉山 知子	美作大学生活科学部教授
田野 智子	NPO法人ハート・アート・おかやま代表理事

敬称略 50音順

# 平成26年度 岡山県文化振興審議会

## 配 付 資 料

【日時】平成27年2月6日(金)

午前10時～

【場所】ルネスホール(ワークルーム)

1	おかやま文化振興ビジョンの成果指標	1
2	アート・ブリッジおかやま形成事業	5
3	地域と人を文化でつなぐキーパーソン育成事業	
4	平成27年度重点事業調書(文化振興課関係) 次世代ミュージアムファン確保事業	10
5	岡山県文化振興審議会規則	12

## 文化振興ビジョンにおける成果指標の実績

### 1 文化を創造し、楽しみ、感動できる岡山

#### (1) 子ども・若者が文化に触れる機会の充実

指 標 名	現況値 (時 点)	目 標 値 (H29年度)	H24年度	H25年度	H26年度 (12月末現在)
学校行事で県立美術館を訪れた人数	4,104人 (H23年度)	4,400人	5,848人	3,518人	1,907人
(説明)授業や部活動などの学校行事で県立美術館を訪れた人数					
ワークショップ参加者数	908人 (H21～H23平均)	1,000人	2,632人	2,318人	1,703人
(説明)県立美術館、天神山文化プラザ、ルネスホールが開催したワークショップに参加した人数					
アウトリーチ活動実施回数	28回 (H21～H23平均)	30回	45回	39回	17回
(説明)県立美術館、県立博物館、ルネスホールが実施したアウトリーチ活動の回数					

#### (2) 文化を担う人材や団体の育成・活用

指 標 名	現況値 (時 点)	目 標 値 (H29年度)	H24年度	H25年度	H26年度 (12月末現在)
あっ晴れ！子どもみらい塾講師派遣回数	338回 (H21～H23平均)	380回	341回	420回	430回
(説明)岡山県文化連盟が芸術・文化の指導者を講師として学校等に派遣した回数					
文化関係各種助成金の採択件数	22件 (H23年度)	25件	21件	37件	27件
(説明)文化庁、日本芸術文化振興会、地域創造等の団体が募集した助成金事業に採択された件数					
文化施設担当者研修会への参加者数	143人 (H23年度)	150人	164人	301人	175人
(説明)岡山県博物館協議会主催の研修会へ参加した人数					
岡山県美術展覧会への応募点数	3,384点 (H24年度)	3,500点	3,384点	3,450点	3,254点
(説明)岡山県美術展覧会へ一般応募された作品(日本画、洋画、工芸、書道、写真、彫刻、デザイン)の点数					
岡山県文学選奨への応募作品数	392件 (H24年度)	500件	392件	390件	428件
(説明)岡山県文学選奨に応募のあった作品(小説、随筆、現代詩、短歌、俳句、川柳、童話)の数					

### (3) 参加し、楽しみ、感動できる機会の充実

指 標 名	現況値 (時 点)	目 標 値 (H29年度)	H24年度	H25年度	H26年度 (12月末現在)
文化施設利用者数(※)	531,106人 (H23年度)	700,000人	527, 721人	477,784人	329,540人
(説明) 県立美術館、天神山文化プラザ、ルネスホール、犬養木堂記念館、岡崎嘉平太記念館、県立博物館の利用者数					
県立美術館の講座等への参加者数	1,646人 (H23年度)	2,500人	3,439人	3,418人	3,171人
(説明) 県立美術館が実施する美術館講座、美術のタペ、講演会、フラワーレクチャー等への参加者数					
優れた芸術を鑑賞した学校数	85校 (H23年度)	475校	179校	292校	(年度末把握)
(説明) 県や国が実施するスクールコンサートや、青少年劇場、巡回公演事業等を開催した学校の累積数					
県民文化祭参加者数	252, 914人 (H23年度)	350,000人	347, 757人	358,116人	(集計中)
(説明) おかやま県民文化祭への総参加者数					
「おかやま文化の駅」ホームページアクセス数	27,742件 (H23年度)	35,000件	20,572件	14,506件	16, 922件
(説明) 県内の文化施設や文化イベント等を紹介するホームページ「おかやま文化の駅」へのアクセス数					

(※)印のある指標は、生き生きプランの「生き生き指標」に設定されている。

## 2 文化の力で創り、拓く岡山

### (1) 伝統文化の保存・継承・発展

指 標 名	現況値 (時 点)	目 標 値 (H29年度)	H24年度	H25年度	H26年度 (12月末現在)
日本伝統工芸展への応募点数	146点 (H23年度)	150点	130件	133点	112点
(説明) 日本伝統工芸展に県内在住者が応募した点数					
登録文化財の登録件数	251件 (H23年度)	300件	252件	268件	274件
(説明) 登録文化財の登録件数					
後楽園の入園者数	664, 503人 (H23年度)	765,000人	661, 175人	659,121人	559,615人
(説明) 後楽園の入園者数					

(2)文化の力による地域づくりの推進

指 標 名	現況値 (時 点)	目 標 値 (H29年度)	H24年度	H25年度	H26年度 (12月末現在)
おかやま県民文化祭地域フェスティバル参加者数	33,073人 (H23年度)	40,000人	90,280人	257,400人	(集計中)
(説明)おかやま県民文化祭地域フェスティバル(備前・備中・美作)への参加者数					
地域の景観づくりに主体的に取り組む景観行政団体(市町村)数	6団体 (H23年度)	10団体	6団体	7団体	7団体
(説明)景観計画の策定等、地域独自の景観形成施策を実施する景観行政団体(市町村)数					
地産地消協力店の登録店舗数	262店舗 (H23年度)	290店舗	288店舗	304店舗	316店舗
(説明)県産食材を積極的に提供する県内小売店や飲食店を「地産地消協力店」として県が登録した店舗数					

(3)文化を活かした産業の活性化

指 標 名	現況値 (時 点)	目 標 値 (H29年度)	H24年度	H25年度	H26年度 (12月末現在)
IT・コンテンツ人材育成研修等への参加者数	36人 (H23年度)	40人	95人	48人	(年度末把握)
(説明)県の委託により実施したIT・コンテンツ人材育成関連の研修に参加した人数					
観光客入り込み数(※)	2,337万人 (H23暦年)	2,800万人 (H29暦年)	2,373万人 (H24暦年)	2,394万人 (H25暦年)	(集計中)
(説明)県内観光施設等への観光客入り込み数					

(※)印のある指標は、生き活きプランの「生き活き指標」に設定されている。

3 文化でつながり魅力を発信する岡山

(1)連携・協働の推進

指 標 名	現況値 (時 点)	目 標 値 (H29年度)	H24年度	H25年度	H26年度 (12月末現在)
おかやま県民文化祭地域フェスティバル実行委員会への参加団体数	34団体 (H23年度)	40団体	43団体	29団体	31団体
(説明)おかやま県民文化祭地域フェスティバル(備前・備中・美作)の実行委員会に参加した団体数					
あつ晴れ！子どもみらい塾講師派遣回数	338回 (H21～H23平均)	380回	341回	420回	430回
(説明)岡山県文化連盟が芸術・文化の指導者を講師として学校等に派遣した回数					

指 標 名	現況値 (時点)	目標値 (H29年度)	H24年度	H25年度	H26年度 (12月末現在)
おかやま県民文化祭参加事業数	125事業 (H23年度)	150事業	120事業	113事業	115事業
(説明)おかやま県民文化祭参加事業として実施された事業数					
県立美術館ボランティア数	81人 (H24年度)	85人	81人	80人	83人
(説明)県立美術館に登録しているボランティア数					

## (2)文化交流の促進

指 標 名	現況値 (時点)	目標値 (H29年度)	H24年度	H25年度	H26年度 (12月末現在)
国民文化祭への派遣団体数	18団体 (H24年度)	20団体	18団体	7団体	8団体
(説明)国民文化祭への派遣団体数					
国際文化交流事業に参加した生徒数	— (H23年度)	900人	162人	162人	162人
(説明)国際文化交流事業(韓国・中国)に参加した高校生の累積数					

## (3)岡山からの文化発信

指 標 名	現況値 (時点)	目標値 (H29年度)	H24年度	H25年度	H26年度 (12月末現在)
文化、スポーツ、自然などに誇りを持てる地域 になっていると感じる人の割合(※)	25.6% (H23年度)	55%	32.5%	34.1%	—
(説明)県民満足度調査で文化、スポーツ、自然などに誇りを持てる地域になっていると感じる人の割合					
普段の生活の中で、芸術・文化、スポーツ等を実践したり、観て楽しめる地域になっていると感じる人の割合(※)	25.6% (H23年度)	35%	31.1%	31.3%	28.5%
(説明)県民満足度調査普段の生活の中で、芸術・文化、スポーツ等を実践したり、観て楽しめる地域になっていると感じる人の割合					
「おかやま文化の駅」ホームページアクセス数	27,742件 (H23年度)	35,000件	20,572件	14,506件	16,922件
(説明)県内の文化施設や文化イベント等を紹介するホームページ「おかやま文化の駅」へのアクセス数					
内田百閒文学賞への応募作品数	340件 (H24年度)	350件 (H28年度)	340件	306件	306件
(説明)内田百閒文学賞に応募のあった作品(随筆、短編小説)の数					
ラジオ番組による文化情報等の発信回数	— (H23年度)	100回	26回	52回	78回
(説明)県内の文化情報を定期的なラジオ番組として情報発信した回数					

(※)印のある指標は、生き生きプランの「生き生き指標」に設定されている。



# 県が実施している重点事業

## アート・ブリッジおかやま形成事業(H25～H27)

県内外から招聘した  
アーティストによる  
アーティスト・イン・レジデンス



地域の住民・アーティスト

- ・素材収集や活用の支援
- ・制作の支援
- ・地域行事での交流
- ・創作意欲の向上
- ・鑑賞者との交流
- ・ワークショップやトークなどでの交流

H25「廻遊」をきっかけに、牛窓で新たな取組も！



### ※実施状況

H25:「廻遊—海から山から—」(25.9.6～12.25)

- ・アーティスト・イン・レジデンス(備前県民局管内3名)
- ・吉井川流域を中心とした8エリア20のアートイベントと連携

H26:「アート・ブリッジ1301」(26.7～12)

- ・アーティスト・イン・レジデンス(美作県民局管内5名)
- ・美作地域のアートイベントと連携

文化によるネットワークづくり、地域住民による新たな展開

## 地域と人を文化でつなぐキーパーソン育成事業(H26～H28)

### ①まちアートマネジメント講座

- ・企画力やコーディネート力、広報技術等のスキルアップ
- ・ネットワークの拡大

26.5.18 スタート・トークセッション(県立図書館)

6.21 講座開講(以降、毎月2～3回)

※受講生による自主的な打ち合わせも

実習

### ②フィールドワーク

- ・演出可能な空間の活用
- ・活用方策の実証(展示等)

備前福岡、総社市まちかど郷土館周辺の2地域で実施

実証イベント開催

・26.11.15～16 総社

・26.11.23 備前福岡

### ③講座成果発表会

- ・実証イベント等の検証
- ・講座受講者による企画・運営

27.2.7 14:00～ 岡山県生涯学習センター

人のつながり→地域のつながり

地域の住民やアーティストの参画

↓  
地域の意欲向上

マネジメント力を生かした受講生による独自・共同企画の展開

地域のイメージアップとにぎわい創出

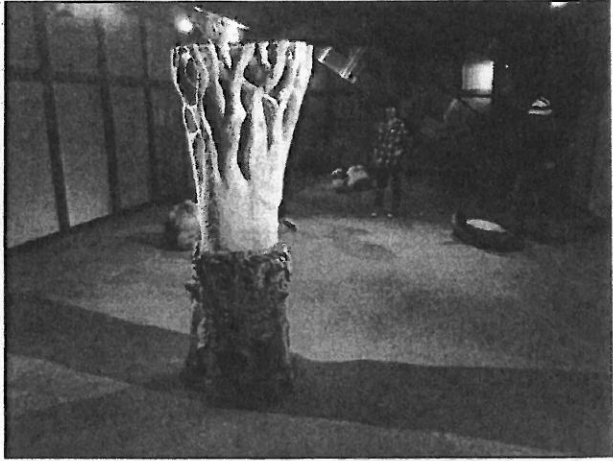
文化を核とした地域の活性化

「アート・ブリッチ1301」の状況

勝部 梓「アズサちゃんレジデンスin勝山」 7月12日～10月5日(真庭市勝山)



勝山町並み保存地区の空き家を活用して滞在制作。

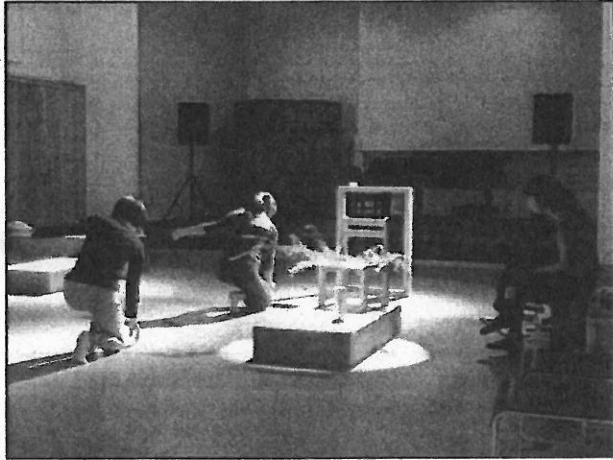


勝山の楠と檜を使った作品。「勝部 梓作品展」から。(勝山文化往来館ひしお)

平井優子「MA庭」プロジェクト 8月6日～10月13日(真庭市久世・落合)



旧遷喬尋常小学校を会場として上演された「猿蓑」の一場面。平井氏は市内の古民家に滞在。



「落合まちかど展覧会」でのワークショップ。(十字屋迎賓館ホール)

大谷俊一「ラクツプラン2014」 8月19日～11月30日(鏡野町奥津)

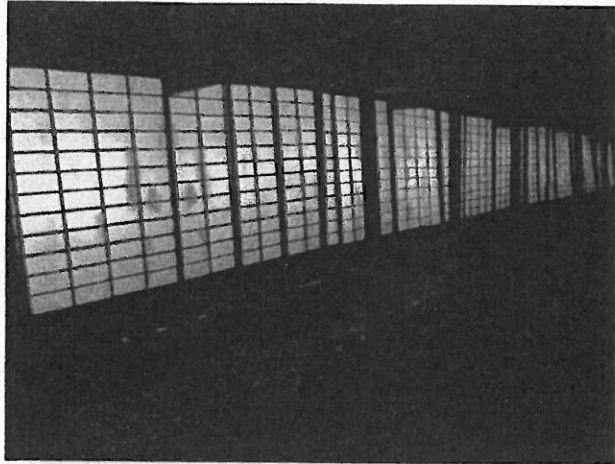


空き店舗を活用したインフォメーション。(旧武本名産品店)

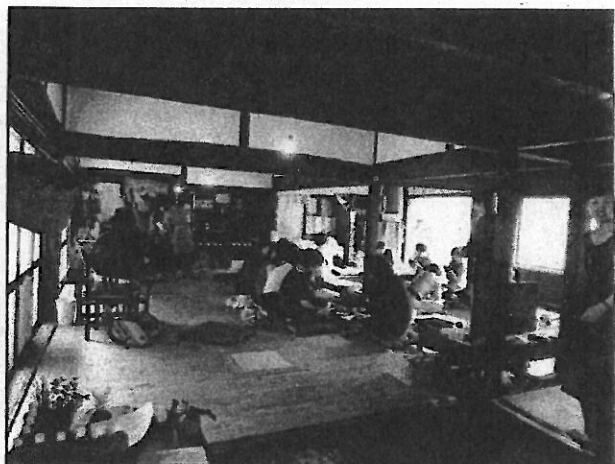


地域イベント「おくつさんぽ」とのコラボ。トークセッション「奥津いずむ」へ参加。(花美人の里ホール)

滝沢達史「3つの水」 8月7日～11月3日(美作市梶並)

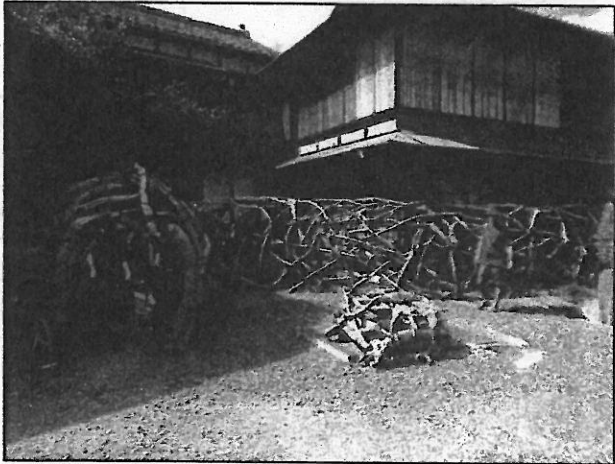


古民家「柗屋」の地下納屋を展示会場として再生。  
地元の奇祭「梶並神社当人祭」をイメージした作品。

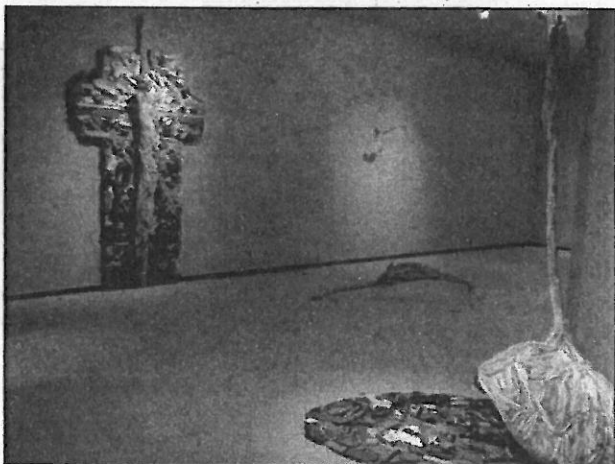


「柗屋」1階では地元のNPO法人により、会期中、  
茶屋&手仕事ギャラリー「山村茶屋」を開設。

岡部 玄「《風の姿・地の響き》計画」 8月19日～11月16日(勝央町勝間田)



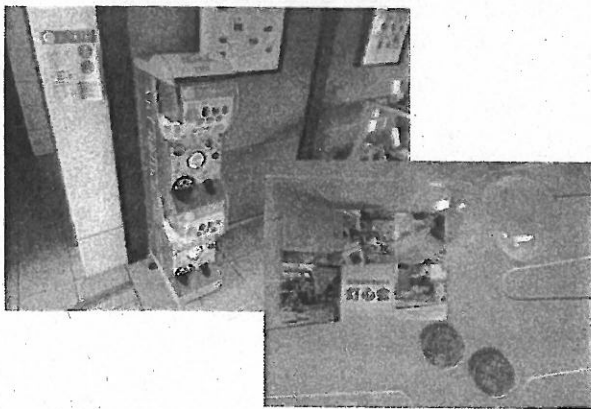
旧板屋庭園などに展示された流木を使った作品。  
制作には地域のボランティアも参加。



流木や漂着物を活用した作品などを集めた「岡部  
玄作品展」(勝央美術文学館)

アート・ブリッチ1301 地域をつなぐアイテム

アート・イン・ガチャ



スタンプラリー

POST CARD

〒700-8570  
美作市北區勝山下二丁目4番6号  
岡山県美作文化創造文化芸術部

アート・ブリッチ1301  
スタンプラリー 号

スタンプ押印欄 \*※エの裏面に押してください

スタンプ A 美作市 ひしお	スタンプ B 美作市 ひしお	スタンプ C 美作市 ひしお	スタンプ D 美作市 ひしお
スタンプ A おくの 福良	スタンプ B ガラス 美術館	スタンプ C 美作市 ひしお	スタンプ D 美作市 ひしお
スタンプ A 美作市 文学館	スタンプ B 美作市 美術館	スタンプ C 美作市 ひしお	スタンプ D 美作市 ひしお

郵便局  
ご住所  
TEL

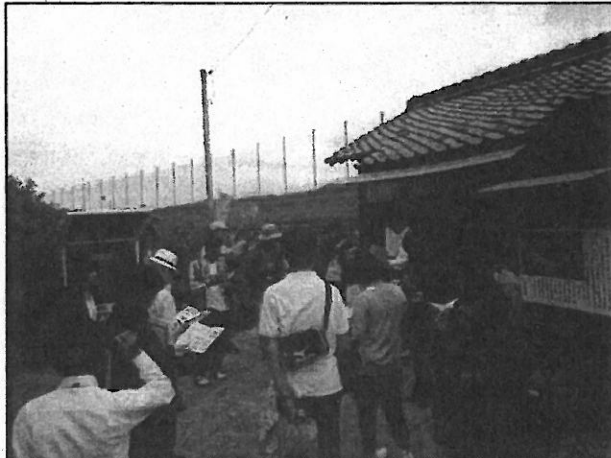
## まちアートマネジメント講座の状況

スタート・トークセッション 5月22日(岡山県立図書館)



徳永高志氏、五味文子氏、伊永和弘氏(当講座常任講師)をスピーカー、田野智子氏(当講座常任講師)をモデレーターとして開催。参加者約80名。

## 講座の様子

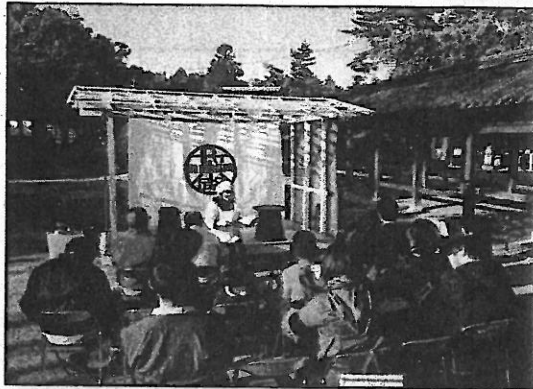


受講生25名。まずは、フィールドワークの現地を歩き、地域の方から備前福岡と総社市まちかど郷土館周辺の歴史と文化を学ぶことから開始。(左:備前福岡、右:総社)



常任講師のほか外部講師も招いて、グループワークを中心に実施。(左:(株)ニッセイ基礎研究所から大澤寅雄氏を招聘、右:グループワークの発表)

実証イベント 11月15～16日(総社宮、まちかど郷土館、旧堀和平邸)



実証イベント 11月23日(備前福岡)

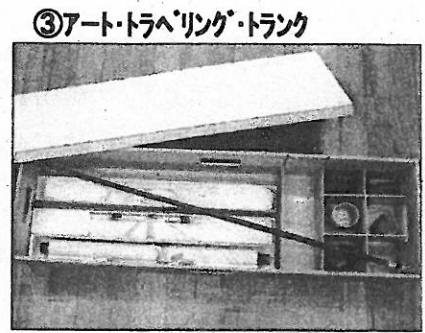


# 重点事業調査

担当部局・課名		環境文化部・文化振興課													
生き 生き プラン	重点戦略	Ⅲ 安心で豊かさが実感できる地域の創造													
	戦略プログラム	7 生きがい・元気づくり支援プログラム													
	施策	☑ 文化創造活動の振興													
重点事業の名称		次世代ミュージアムファン確保事業													
終期設定(年度)	29	予算区分	一般	事項名	県立美術館事業費										
現状・課題・根拠	<p>美術は研究者のためだけにあるのではなく、本来、一般(県民)の方が生涯の趣味・生活の彩りとして親しみ楽しめるものであるにもかかわらず、近年、<b>県立美術館の利用者数が減少傾向</b>にあるのは、単に趣味・嗜好の多様化というだけでなく、<b>小・中学生の間に美術館を訪れる機会が身近に提供されていない</b>ことも一つの原因と考えられる。</p> <p>このことは、小学校の先生から寄せられている校外学習で美術館を訪ねる際の支援拡充の声や大学生への県立美術館アンケート結果(<b>県立美術館にほとんど来たことがない学生 83.5%</b>)などからも裏付けられ、<b>子どもの頃から気軽に美術館を訪問する環境づくりが必要</b>である。</p>														
事業の内容	<p><b>○次世代ミュージアムファン確保事業</b></p> <p>本事業では、次の施策を実施することにより、若い世代の人たちに「美術館とのよき出会い」や「生涯を通じ芸術に触れるきっかけ」を積極的に提供していく。</p> <p><b>■ 1. グッド・スタート・ミュージアム事業《5,306千円》</b></p> <p>県内の小中学生を対象に、「<b>美術館とのよき出会い</b>」を演出していく。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アート・トラベリング・トランク等を活用した美術館学習プログラム</li> <li>・カルチャーゾーンを活かした学習プログラム「<b>アート&amp;ヒストリー TRY アガル</b>」</li> </ul> <p>県立美術館・県立博物館・オリエント美術館が連携して校外学習を受け入れるモデルプランの提案と実施。バス代サポート制度の導入。(県・市連携事業)</p> <p>&lt;継続して実施&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 学校と美術館の連携委員会による事業検討の継続</li> <li>② 美術館学習をサポートする教員等の人材育成</li> <li>③ 美術館教育ソフトの検証・開発・実践</li> </ol> <p><b>2. ミュージアムパートナーズ事業</b></p> <p>県内の大学と連携して、パートナーシップへ参加してもらえる大学や専門学校等(学生数による負担金を設定)の学生に対し、入館料の減免を行い気軽に来館する機会を提供していく。</p>														
事業の意図・効果等	<p>&lt;事業の意図・効果&gt;</p> <p>若い世代が美術館を身近に感じ、<b>生涯にわたって美術館に足を運ぶ環境づくり</b>をめざし、学校と美術館(博物館)が連携するプロジェクト事業として3ヶ年実施し、県下市町村の事業への拡大を図る。</p> <p>&lt;当該事業の目標設定&gt; <span style="float: right;">(おかやま文化振興ビジョン)</span></p> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td rowspan="2">学校行事で県立美術館を訪れた人数</td> <td>現状</td> <td>H27</td> <td>H28</td> <td>H29</td> </tr> <tr> <td>4,104</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>4,400</td> </tr> </table>						学校行事で県立美術館を訪れた人数	現状	H27	H28	H29	4,104	—	—	4,400
学校行事で県立美術館を訪れた人数	現状	H27	H28	H29											
	4,104	—	—	4,400											
戦略プログラム(生き活)との関係	関連生き活き指標		現状値(H25)		目標値										
	県文化施設利用者数		477,784人/年		600,000人/年										
	<p>&lt;生き活き指標への貢献&gt;</p> <p>未来の文化の担い手候補である子どもたちに「美術館とのよき出会い」を提供するとともに、社会人になる前の大学時代にも気軽に美術館を訪れることができる機会を提供することにより、生涯にわたり芸術・文化を積極的に楽しむきっかけとなり、文化創造活動の振興を図ることができる。</p>														
事業費の見積り	区分	H26 予算額	H27 予算要求額	H28 見込額	H29 見込額	H30以降見込額									
	事業費(単位:千円)		5,306	5,306	5,306										
財源内訳	一般財源		5,306	5,306	5,306										
	起債														
	その他特定財源														

# 次世代ミュージアムファン確保事業

「美術館とのよき出会い」を演出(生涯を通じ芸術に触れるきっかけ)



※ゲーム的要素を備え、機動性もある。  
30セットを各地域の学校と県立美術館  
で活用中。

① 学校と美術館の連携委員会

県内市町村

市町村事業への波及促進

モデル事業として情報発信

新③アート&ヒストリー-TRYアングル

校外学習の受け入れ



バス代サポート



※学校からの要望がある。



県・市連携事業

アート・トラベリング・トランクの素材充実

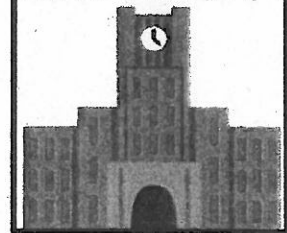
県立博物館  
オリエント美術館

成長

社会に出る前に  
「気軽に美術館を訪れる」  
機会を提供

2. ミュージアムパートナーズ事業

大学、専門学校等



- ・大学等はパートナーシップへ参加(学生規模により負担金設定)
- ・県立美術館は入館料の減免を行い気軽に来館する機会を提供

文化の担い手  
として成長

- ・美術を生涯の趣味・生活の彩りとして親しみ楽しむ
- ・文化創造活動の振興
- ・学校教育における文化活動の充実
- ・県立美術館入館者の増加
- ・県文化施設利用者の増加



文化施設利用者数

# 岡山県文化振興審議会規則

平成十八年三月二十四日  
岡山県規則第五十一号

## (趣旨)

第一条 この規則は、岡山県附属機関条例(昭和二十七年岡山県条例第九十二号)第四条の規定により、岡山県文化振興審議会(以下「審議会」という。)の組織及び運営に関し必要な事項を定めるものとする。

## (所掌事項)

第二条 審議会は、次の事項を所掌する。

- 一 岡山県文化振興基本条例(平成十八年岡山県条例第十五号。以下「文化振興基本条例」という。)第八条の規定により知事から諮問された事項に関する調査審議及び意見の具申
- 二 その他文化振興基本条例の施行に関する意見の具申

## (組織)

第三条 審議会は、委員二十名以内で組織する。

2 委員は、学識経験を有する者のうちから知事が任命する。

## (委員の任期)

第四条 委員の任期は、二年とする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

2 委員は、任期満了後であっても、新たに委員が任命されるまでは、その職務を行うものとする。

3 委員は、再任されることができる。

## (会長及び副会長)

第五条 審議会に会長及び副会長を置き、委員の互選によってこれを定める。

2 会長は、審議会を代表し、会務を総理する。

3 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるときは、その職務を代理する。

## (会議)

第六条 審議会の会議は、会長が必要に応じて招集し、会長が議長となる。

2 審議会は、委員の半数以上が出席しなければ、会議を開くことができない。

3 審議会の議事は、出席委員の過半数でこれを決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

## (専門部会)

第七条 審議会は、その所掌事項の一部を分掌させるため、専門部会を置くことができる。

## (委員以外の者の意見の陳述)

第八条 会長は、必要があると認めるときは、委員以外の者に審議会の会議に出席して意見を述べさせ、又は説明させることができる。

## (庶務)

第九条 審議会の庶務は、環境文化部文化振興課において処理する。

## (その他)

第十条 この規則に定めるもののほか、審議会の運営に関し必要な事項は、会長が審議会に諮って定める。

## 附 則

この規則は、平成十八年四月一日から施行する。

附 則(平成二二年規則第二七号)抄

## (施行期日)

1 この規則は、平成二十二年四月一日から施行する。